

令和7年度 静岡県インフラビジョン推進会議 会議録

日 時	令和7年10月16日（木） 10時30分 ～ 12時
場 所	県庁本館4階 401会議室
出席者氏名	<p>○ 委 員</p> <p>内海 佐和子（静岡県立大学経営情報学部 教授） 川島 康明（一般財団法人静岡経済研究所 理事 研究部長） 五味 響子（しずおか流域ネットワーク 副会長） 下川 澄雄（日本大学理工学部 特任教授）【委員長代理】 原田 賢治（国立大学法人静岡大学防災総合センター 准教授） 平井 一之（一般社団法人静岡県環境資源協会 会長） 山内 秀彦（特定非営利活動法人地域づくりサポートネット 代表理事） （敬称略、五十音順）</p> <p>その他、行政委員（庁内関係課長）9名 羽田交通基盤部理事、政策管理局建設政策課（事務局）</p>
議 題	次期「静岡県インフラビジョン（素案）」について
配布資料	<p>1 次第、名簿、座席表</p> <p>2 静岡県インフラビジョン（素案）</p>

議 事 概 要

1. 全体・ビジョン

- 好調なインバウンドについては、オーバーツーリズム以前の問題で、インバウンド客は静岡県を通過してしまっている。まずは、滞在時間を延ばすこと、宿泊客を増やすことが重要。
 - オーバーツーリズムの問題は、対処療法ではなく事前に対策することが重要。
 - インフラビジョンが県民に見てもらえるものだと考えるとインフラとは何かが書かれていない。最初のフレームを決めると分かりやすい。
 - 静岡県には、富士山があり、また南アルプスの赤石山脈は海から隆起した山として日本一の高さの北岳など、現在も隆起が続いている山である。そして、それらに続く水源の森から流れ下る河川が海に注ぎ、駿河湾の深さもあり、日本一の標高差があると同時に、フォッサマグナ断層も通る県土である。
- その中を人々の知恵で、古くから往来のための道を通し、東西に走る東海道、そして南北の道など、静岡県の道の特徴がある。現在は伊豆縦貫道など多様に進んだインフラが整備されているが、静岡県のインフラの特徴を考えると、申し上げたような地形的特徴、標高差や環境の多様さにも少し触れてもらいたい。

- インフラはかなり整備されてきたが、これからはインフラをどう使うのか。そういったキーワードが出てくると良い。課題をどう改善していくのか、インフラの質を上げる視点が重要。
- 地域資源を活用した自立分散型社会の構築が不可欠でどの分野にも共通する考え方である。これを書き込むことで静岡県らしさがでてくるのではないかな。
- グリーンインフラについては、太陽光パネルが問題になっているため、他の分野の再生可能エネルギーも検討していくべき。
- 多様なモビリティ（電動モビリティやシェアサイクルなど）が都市部では問題視されていることについて、認識しておかななくてはならない。

2. プラン

- プランには静岡県の特徴的なものが挙げられていて良い。
- 熱中症対策だけ一般論となっている。静岡県ならではの取組を追記すると良い。
- 共創について、ウォーターPPPやコンセッションといった文言が無いので、入れられるようなら追記すると良い。
- 富士山の噴火、今でも隆起し続けている南アルプスなど山の怖さなどを勘案した防災の取組などを書き込んでもらいたい。
- 近年の人口減少や産業構造の変化により、人々の身近な道の近くで古くから利用されてきた、いわゆる里山が、竹が繁茂するなど荒廃が目立ってきており、それについても道路の安全面の課題となっているのではないかな。
- 共創は、建設業界に関する記載がトップになっているが、産学官一体を押し出しているのだから、こちらを先に書くべきではないかな。
- 地域との連携も美化活動ばかりではない。民間や学生の活動についても触れてみてはどうか。
- 限られたスペースなので、どこまで何を入れるかは、優先順位を含めて検討されたい。
- 道路を効率的に上手く使っていくためには、階層的な道路ネットワークの再編が求められる。このなかでも、中間階層である広域道路のサービスの質は良好ではなく、地域高規格道路に加え、立体交差やラウンドアバウトなどの整備を進めてサービスレベルの向上に努めるべきではないかな。
- インフラビジョンの推進に合わせ、引き続きフォローアップやモニタリング等も必要である。このことについて、あとがきなどに書き込めると良いのではないかな。
- 3つの重点分野は、それぞれが相互に関わっており簡単には分けられない。そういった説明を入れておくと良い。
- サーキュラーエコノミーではインフラ長寿命化の取組を非常に重要な視点になるので、説明を入れておくと良い。
- ZEBReadyだけでなくNearlyZEBまでチャレンジする意気込みがあっても良いのではないかな。
- エネルギー基本計画の再生可能エネルギー電源構成は25%から40%にすると謳われているが、太陽光発電に頼っている。しかし、ほとんどのパネルが中国製であり、経済安全保障上の問題や処分の問題などが山積している。小型水力や小型風力などがあっても面白いのではないかな。

- クルーズ船については、寄港地からの足（バスの運転手不足など）の問題がある。記載について検討されたい。
- 県では景観広域計画を作成しており、その中でアクションプランやモデル地区などがあったが、フォローアップしてもらいたい。
- 包括的インフラ管理と地域連携のまちづくりがさらに連携できると良い。ボランティア団体との連携をしっかりやってもらいたい。